



【見どころ紹介】今回の展覧会はここがポイント！

- ◆ 現代作家たちのガラス作品を自然の表現という共通のテーマでご紹介。
- ◆ 作品1つ1つに表された東西の作家たちの独創性と技法に注目。
- ◆ 同時開催中の「ヴェネチアン・ガラスの四季」では、芸術の秋をテーマに20世紀以降の先駆的なヴェネチアのガラス・アート作品を紹介。現代ガラス作品と比べてみると、新たな発見も。
- ◆ ご自身のスマートフォンで聴くことができる無料の音声ガイドを今年もご用意。
当館所蔵のヴェネチアン・ガラスと、企画展示の現代ガラス作品への造詣が深まります。

【概 略】

約4000年前に生み出されて以来、人々を魅了し続ける人工の素材、ガラス。20世紀に入ると、ガラスは、装飾品や工芸の分野だけではなく、芸術表現の分野でも新たな可能性を秘めた素材として注目を集め、芸術家自身がデザインから制作までを一貫して手掛けたガラス・アートが誕生しました。本展では前期と後期に展示を分け、ガラス・アート界を牽引する国内外の現代作家6名のガラス作品をご紹介。ガラスという千変万化する素材の魅力を存分に引き出し、工芸の分野に留まらない多様なガラス表現を模索するイタリアとアメリカ、そして日本のアーティストたちの個性が豊かに響き合う、ガラス・アートの世界をご覧ください。

【タイトル】～響き合う東西の美～ ガラス・アートの世界

【会 期】2022年4月29日（金）から2023年4月16日（日）まで

後期日程：9月28日（水）～2023年4月16日（日） ※前期日程：開催中～9月25日（日）にて終了

午前10時～午後5時30分（入館は閉館の30分前まで）※12月30日、31日は午前10時～午後4時30分

2023年1月10日～1月20日は休館。

【会 場】箱根ガラスの森美術館

【主 催】箱根ガラスの森美術館、毎日新聞社【後 援】箱根町

【協 力】箱根DMO（一般財団法人 箱根町観光協会）、小田急グループ

【入 館 料】一般1,800円 高大生1,300円 小中生600円（税込）



【お問い合わせ】箱根ガラスの森美術館 広報担当：根本、柳井、中野

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 940-48 TEL0460-86-3111 Mail hakone-museum@ukai.co.jp

【後期展示】 9月28日(水)～2023年4月16日(日) ～ガラスに表現される多様な自然～

後期展示では自然の表現を共通のテーマに、ガラスという素材で異なるアプローチを試みる3人の現代作家の作品を紹介する。アメリカ合衆国を代表するガラス作家、デイル チフーリは、日本の生け花の世界観を個性的な造形と色彩で表現、一方日本を代表するガラス作家の山野宏は、海外での経験を通じて日本の文化や自然観を再認識し、安らぎを感じさせる自然の美しさを表現している。そして山本茜は、日本の伝統技術「截金(きりかね)」とガラスを融合するという、世界からも注目される独自の技術で平安貴族たちの自然への美意識を作品に表現する。三者三様の異なる背景から生み出されたガラス作品を通じて、互いの個性が響き合うガラス・アートが楽しめる。

【展示予定作品】 ※出品作品や作家(順不同)は変更の可能性がございます。

◆デイル チフーリ (1941年～)

1967年、「スタジオ・グラス運動」の提唱者、ハーヴィー・K. リトルトンに師事。更にガラス技術を学ぶため、翌年、吹きガラスの本場ヴェネチアに留学。歴史あるヴェニーニ工房でヴェネチアン・グラスの伝統に強い影響を受け、以後、色彩豊かで生命感のある独特の作品を多数制作する。



撮影：飯島幸永



1. Venetian 1989年 U.S.A.



2. Ikebana 1997年 U.S.A. デイル チフーリ 制作 箱根ガラスの森美術館所蔵

個性的な造形と色彩表現でガラス・アートを牽引「Ikebana」(2)

ヴェネチアの現代ガラス作家リノ・タリアピエトラと共作で、ホットワークテクニックと漆のような色彩表現による日本の「生け花」を表現した作品を手掛ける。

◆山本 茜 (1977年～)

平安時代に生み出された截金技法を重要無形文化財「截金」保持者の江里佐代子氏に師事。ガラスと截金を融合させた「截金ガラス」は、ガラスに截金を浮かべたような透明感と繊細さが特徴で、その独自の技術は国内外から評価されている。自然の繊細さや移ろう姿に心情を重ねた平安時代の人々の美意識を今に伝える作品を手掛ける。



3. 「渦」 2020年 日本 山本茜 制作 プライベートコレクション 撮影：鍋島徳恭



截金技法とガラスの融合「渦」

渦巻くエネルギーを視覚化している。渦巻く截金文様が、極限まで磨き上げた円錐形のガラスのなかで螺旋を描いて上昇するように幾重にも映し出され、万華鏡のように見える。

◆山野 宏 (1956年～)

海外で制作活動をするなかで、宙吹きしたガラスの表面に厚手の銀箔を熱熔着し、銅メッキを施す独自の加工技術や、前に進み続ける自身の姿を重ねた回遊魚を作品に登場させるスタイルを確立した。近年では移り行く四季、特にアトリエを構える福井の豊かな自然の美しさをガラスで表現した作品を手掛ける。



心の安らぎをガラスで表現

「Drawing on the vessel」

まるで琳派を思わせる風雅な器、そこから伸びる枝には野鳥を配し、ガラスで花鳥画の世界観を表現した。古くから自然を表現してきた日本の伝統的な美意識が感じられる。

4. Drawing on the vessel 日本 山野宏 制作 プライベートコレクション ※Drawing on the vessel シリーズの新作を展示予定